

酒井威志 / SAKAI Takeshi

桐朋学園大学卒業、同大学院修士課程修了（いずれも作曲専攻）。

修士論文題目は「ウィリアム・ウォルトンに於ける折衷性の諸相——戴冠行進曲《王冠》及び《宝玉と勺杖》を中心として——」。

大学在学中に法政大学アリオンコールのトレーナーを務め、以後作曲・指揮を軸として合唱、管弦楽、吹奏楽等の分野に於ける創作、演奏、指導に携わる。近年は中学校・高等学校の音楽科教育にも従事。

実作者・演奏者・教育者としての経験を踏まえつつ、音楽と人間の関係、その交点にある教育や伝承、そして音楽を語る言葉に関心を持つ。音楽家の形成と生涯、近代日本における西洋音楽の受容といった主題を手がかりに考察を重ね、社会や文化、他の芸術とのあいだで音楽をとらえ直す執筆に取り組んでいる。

主な作品に、男声合唱とピアノのための組曲《落日》（合唱団オールアリオン委嘱）、室内楽曲《闇に響く声》（桐朋学園音楽部門作品展に選出）、歌曲〈抒情の手〉、弦楽四重奏曲〈傀儡幻想〉、吹奏楽曲〈幾たびの夏〉。

日本作曲家協議会、日本ソルフェージュ研究協議会、日本グレゴリオ聖歌学会、各会員。これまでに作曲を三瀬和朗・小鍛冶邦隆・正門憲也、指揮を黒岩英臣・紙谷一衛・梅田俊明、ピアノを相澤聖子・右高理絵・石岡久乃、オルガンを坂戸真美、ヴァイオリンを鷺見健彰、声楽を与那城敬の各氏に師事。

